

高温に注意！高温に対応した管理を徹底しましょう！**1 飽水管理を継続してください**

○登熟初中期はデンプン蓄積が盛んな時期です。可能な限り飽水管理を継続し、田面を乾かすことがないよう管理して下さい。

○極端な高温やフェーンが予想される場合は、速やかに湛水して下さい。

ただし、根腐れ防止のため湛水は一時的なものとして下さい。

○完全落水は出穂後30日以降をめやすとして下さい。

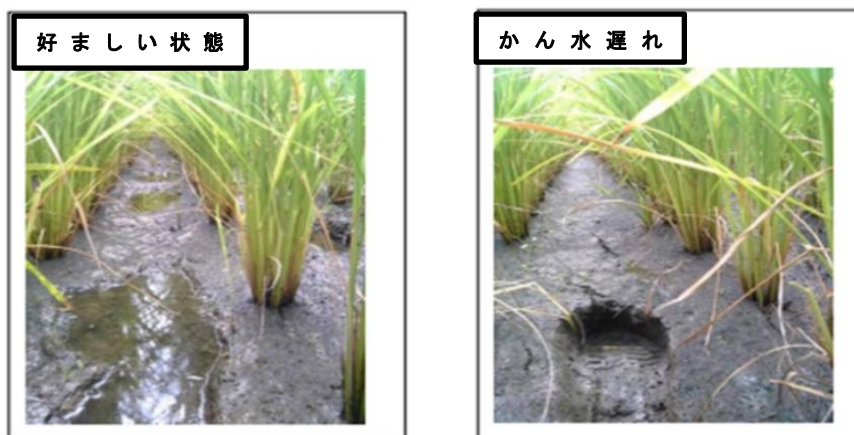


図 飽水管理の状態（足跡に水が残る程度）

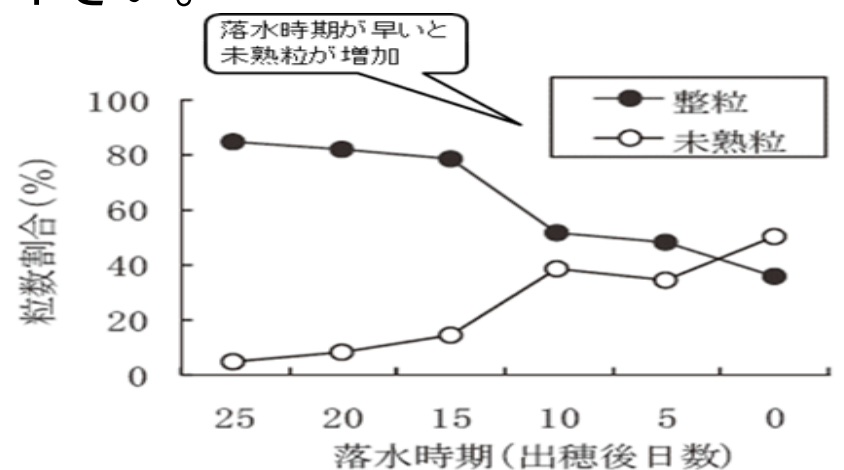


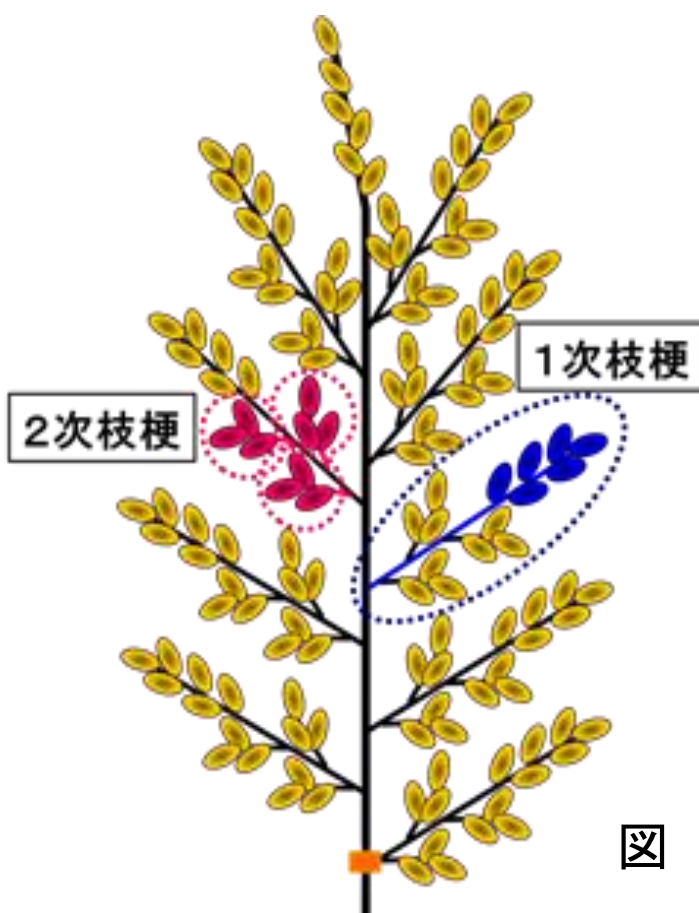
図2 落水時期と品質

2 ほ場ごとの収穫適期を確認してください**(1) ほ場ごとの収穫適期判断**

○積算温度は一つのめやすとして活用し、実際の収穫適期は下図を参考にほ場ごとに判断して下さい。

○ほ場ごとの収穫適期は、穂全体の85～90%が黄化し、穂の基部に緑色の籾が一部残っている頃です。

○茎葉の色だけで収穫適期は判断できませんので、必ず籾の黄化率を確認した上で、ほ場ごとに収穫適期を判断して下さい。

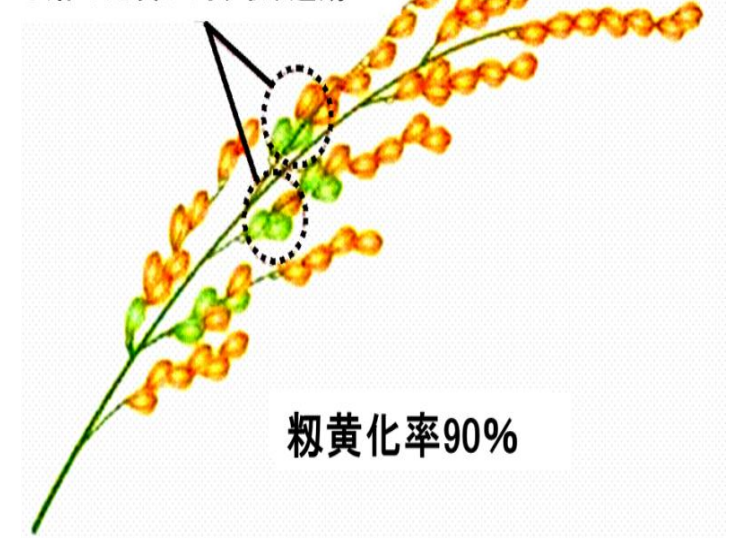


図

適期確認の流れ

- ①1次枝梗が9本程度の平均的な穂を選ぶ
- ②中位の1次枝梗の中から2次枝梗を探す
- ③2次枝梗の先端から2, 3番目の籾の黄化を見る
- ④2, 3番目の籾が黄色に変わりかけている頃がその穂の収穫適期
- ⑤同様に10本の穂を調べ、8本以上が当てはまれば、収穫適期の判断の方法

穂中位の2次枝梗の先端から2～3番目の籾が緑～黄化し始めた頃が刈り取り適期



籾黄化率90%

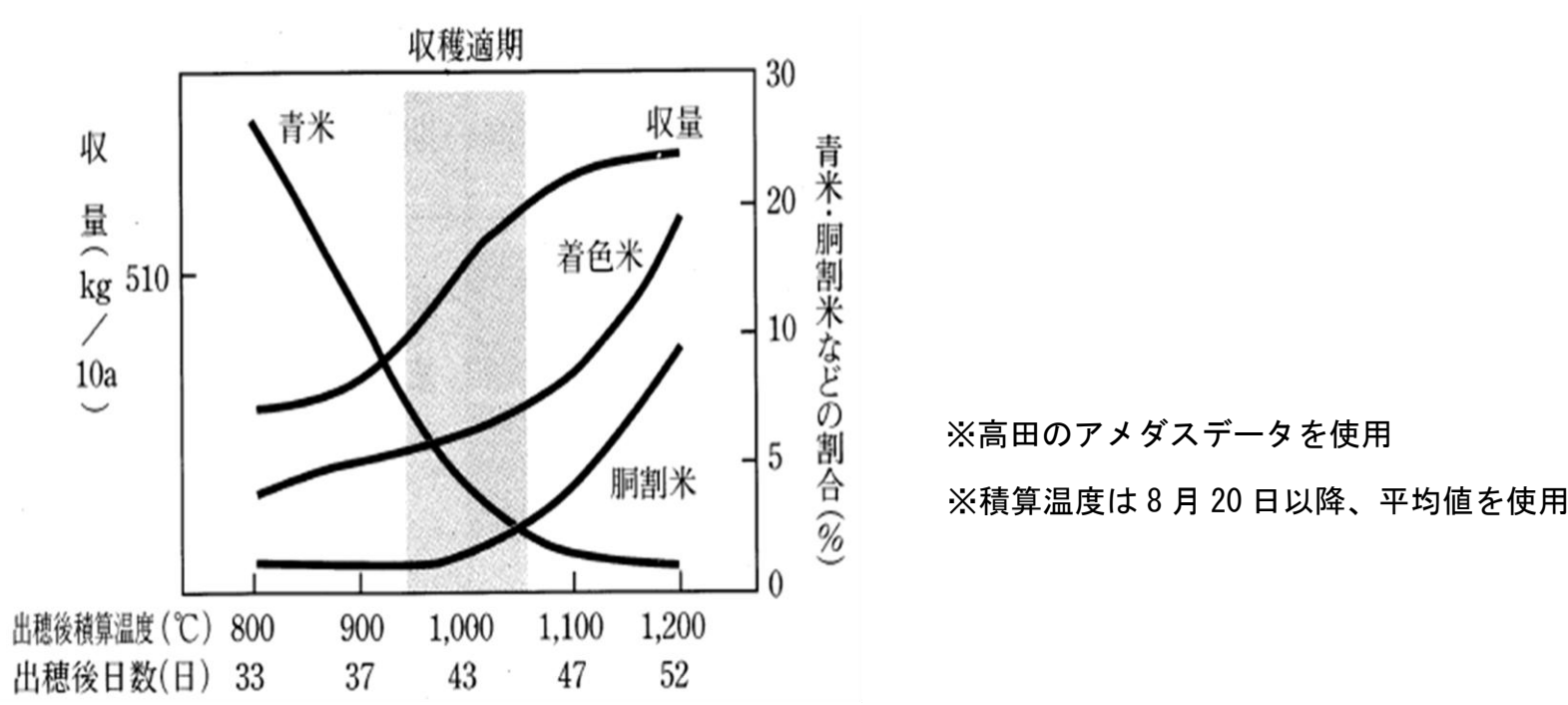
(2) 出穂期と収穫適期の目安

○高温の影響で出穂が早まっています。刈り遅れによる胴割粒や基部未熟粒の発生軽減のため
ほ場ごとに収穫期、籾の黄化率を確認し収穫計画を設定して下さい。

表 出穂期と収穫適期の目安

	品種名	出穂期	出穂後の 積算温度	収穫適期のめやす
早生	つきあかり	7月18～20日頃	1,000～1,100℃	8月24日頃
	わたぼうし	7月15～17日頃	975℃	8月20日頃
	こしいぶき	7月18～20日頃	975℃	8月24日頃
中生	こがねもち	7月22～25日頃	1,000℃	8月28日頃
	コシヒカリ（平坦地）	7月25～28日頃	1,000℃	9月 4日頃
	コシヒカリ（中山間地）	8月 5～11日頃		9月18日頃
	にじのきらめき	8月 6～8日頃	1,100～1,200℃	9月13日頃
晩生	新之助	7月30日頃	1,050℃～	9月20日頃
	みずほの輝き	8月 5～7日頃	1,050℃～	9月23日頃

図 出穂後積算温度と玄米品質



3 収穫後の圃場管理

○秋すき込みの実施・・・腐熟促進剤を活用しながら籾殻や稲わらをすき込みましょう。
稲わらの秋すき込みは、堆肥施用と同等の「土づくり」効果に加え、春耕起に比べてメタンや
硫化水素などの発生量が少なくなり、ワキの発生が軽減されます。

令和8年度 安全・安心「えちご上越米」栽培履歴の提出について

- ・第2回目提出日8月20日までです。
- 未提出の方は支店又は頸南営農センターへ提出をお願いします。

※栽培履歴の提出はJAに米を出荷する方、JA共乾施設を利用される方が対象です。
提出が無いと施設利用が出来なくなります。必ず提出して下さい。

LINE 営農情報LINE公式アカウント
友だち募集中！



@618zoxpw